

家庭科が始まります

5年生になって初めて家庭科と出会う子どもたち。

自分や家族の生活を見つめ、支えられている自分からできるようになる自分へと家庭科の学びを通して成長していきます。

教科書では一番最初に、入学してからこれまでに学習したことをふり返る場面から始まります。学習はもちろんのこと、家庭生活や学校生活、地域でのふれ合いなどすべてがつながっていて、家庭科に生かしてい

けることを表しています。

この内容解説資料は3章構成でできています。第1章は、子どもたちの主体的・対話的で深い学びに寄り添うために開隆堂の家庭科教科書を編修するとき大切にした事柄です。第2章は、児童が生活に生きる確かな力を育むことができる、教科書での工夫を紹介しています。第3章は学びの環境を支えるためのさまざまな特色ある題材について、多方面から紹介しています。

表紙について



主人公は小学生です。生活の場である家庭や地域を見つめて、家族や地域に暮らすさまざまな人々と関わり、共に生活していく様子を描いています。

小学生の乗った気球には、生活に係る見方・考え方の4つの視点を、四つ葉のクローバーをモチーフに表現しています。四つ葉のクローバーの回りには家庭生活で行われていることや家庭科の学習内容が描かれ、見方・考え方を働かせながら学習していく様子を表しています。

代表著者挨拶

新教科書は、いきいきと家庭科を学ぶ子どもたちの姿をイメージしながら編修をしました。「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」を子どもたち自身が意識しながら学習を進め、身近な生活から課題を発見し、主体的に、また、対話的に解決することによって生活に生かす力を確実に身につけることを大切にしています。

各題材の始まりには、学習内容に関わる課題に気づけるような写真を扉ページに取り上げています。そして、課題解決のための基礎的、基本的な知識・技能を習得する学習へと進み、わかったことやできるようになったことを共有し、次の新しい課題にも取り組めるような流れで構成しています。また、学習の流れが見える紙面構成、資料やデジタルコンテンツの充実など、効果的に学べるような工夫もしています。

子どもたちにとって学びやすく、先生方にとって授業がしやすい教科書であると確信しています。

東京学芸大学 名誉教授
鳴海 多恵子

千葉大学 名誉教授
石井 克枝

横浜国立大学 教授
堀内 かおる